

# お盆にあわせて、日本海ダクト連日オープン！

2001年 8月13日～16日 JG0TEV 中村 豊

## 1.はじめに

7月の下旬から8月上旬いっぱい是不順な天気が予想され、お盆頃から回復すると予想されていましたが、予想通りに13日～16日にかけて高気圧の勢力の強まりや上空の乾燥空気の流れ込みによって連日にわたり日本海ダクトが発生、各エリア間でオープンが確認されました。気象状況について確認し気象解析によってダクト発生の裏付けをとりたいと思います。

8月13日のダクト発生域(推定)



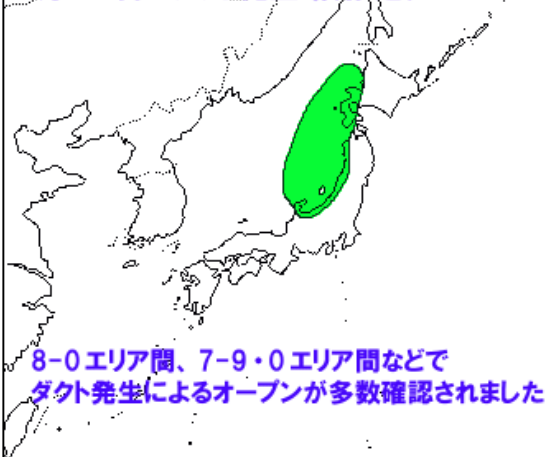
8月14日のダクト発生域(推定)



8月15日のダクト発生域(推定)



8月16日のダクト発生域(推定)



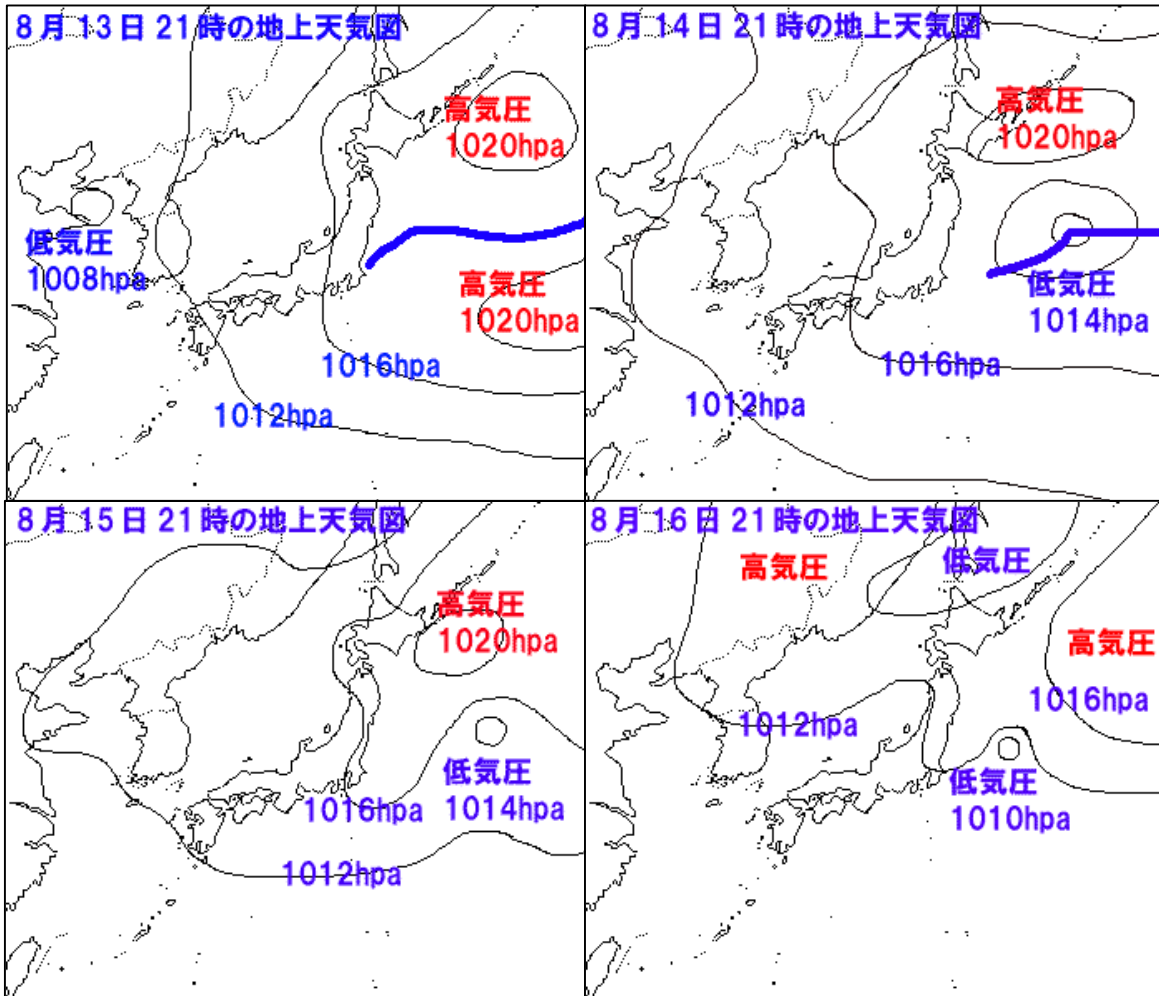
## 2.気象解析からダクト発生についての裏付けを行う

### (1)地上天気図の移り変わりからダクトの発生を解析する

13日以前の日本付近は高気圧には覆われていましたが、前線の影響で雨の降りやすい天気が続いていました。

13日になると前線の活動はすっかり弱まり天気も急速に回復、15日にかけては高気圧にすっぽりと覆われました。

16日には日本海に弱い気圧の谷が現われるようになり17日以降の天気に影響を与えました。

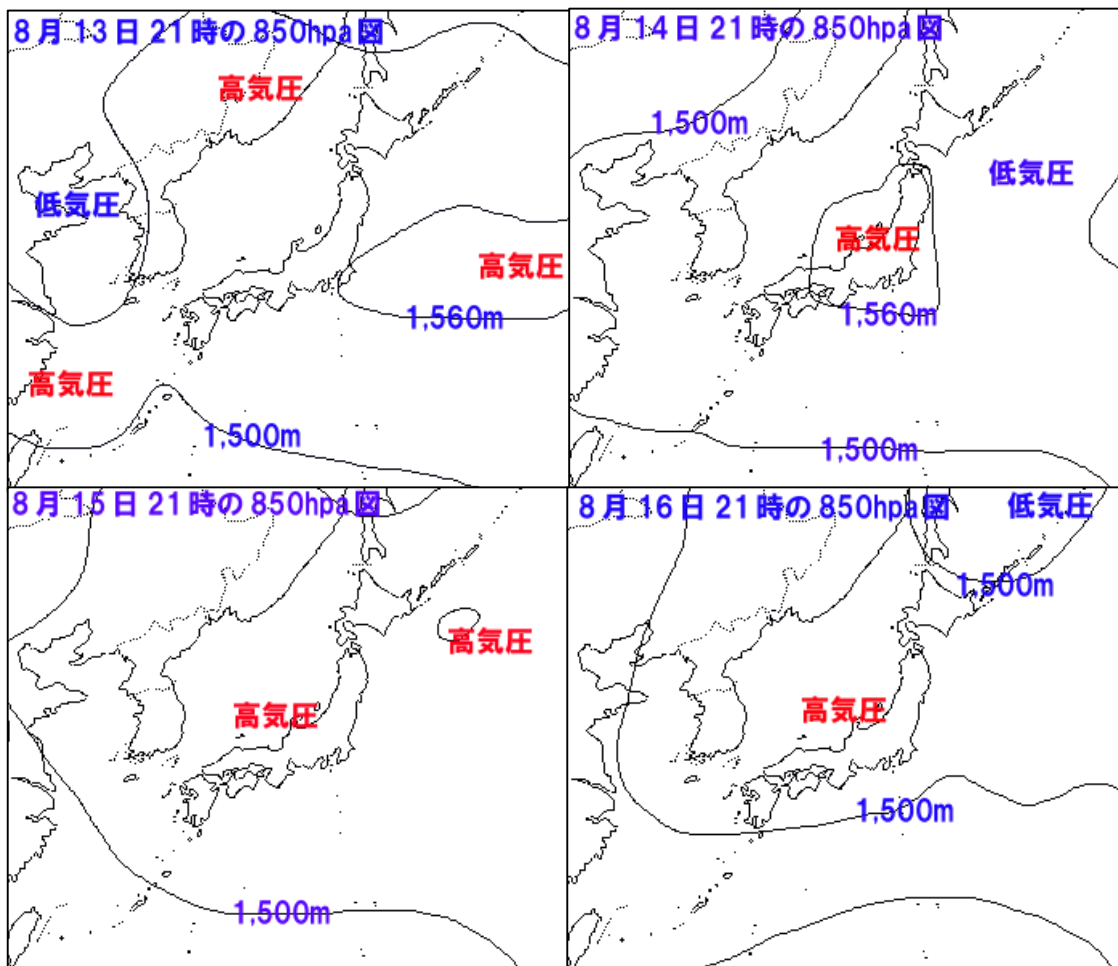


(2)850hpa図から最下層大気の状態からダクトの発生を解析する

上空の高気圧の勢力変化は、850hpa図で顕著に見られます。

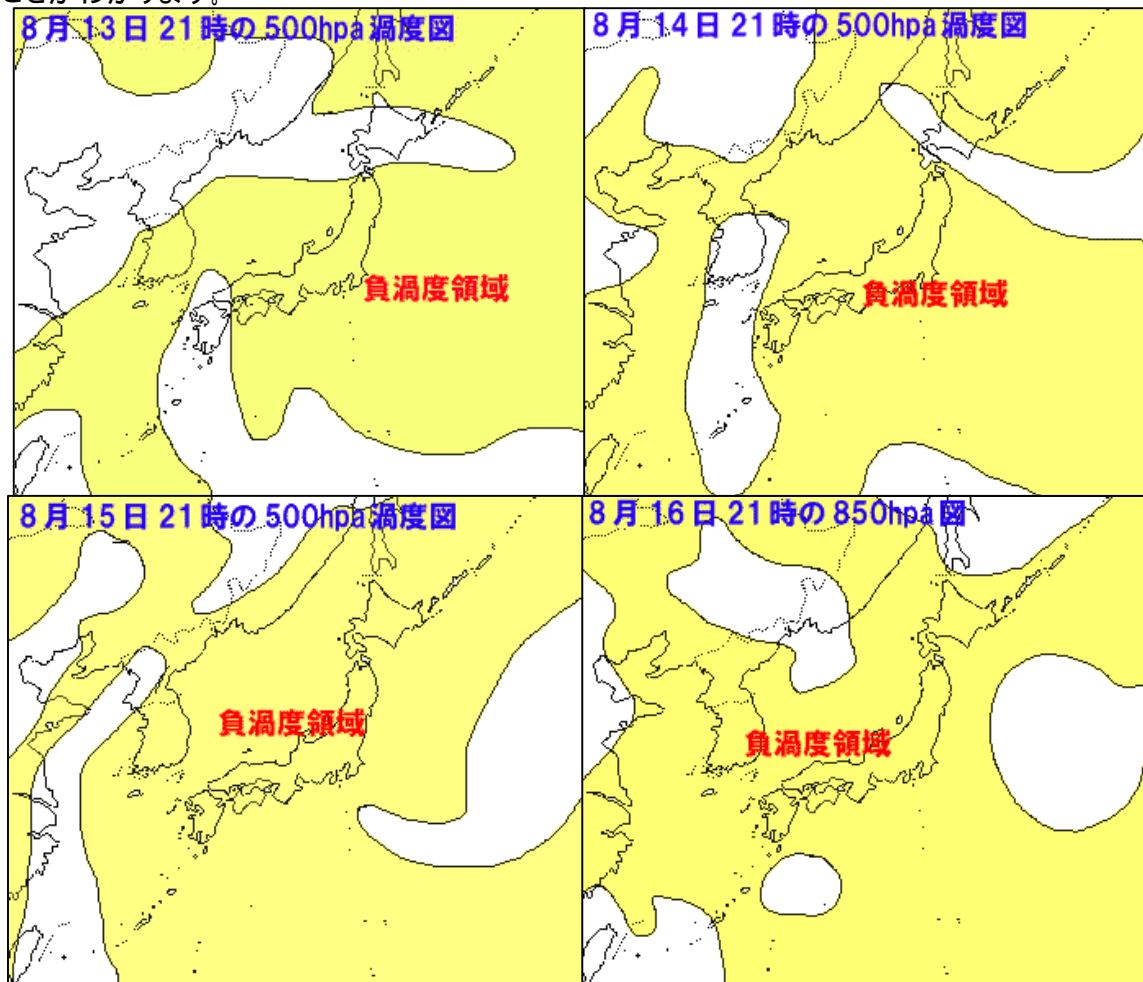
13日～14日にかけて日本付近に1,560mの閉じた等高度線で背入れ力を強めつつある高気圧が解析されました。

高気圧の勢力は16日にかけても日本付近を覆ったことがわかります。



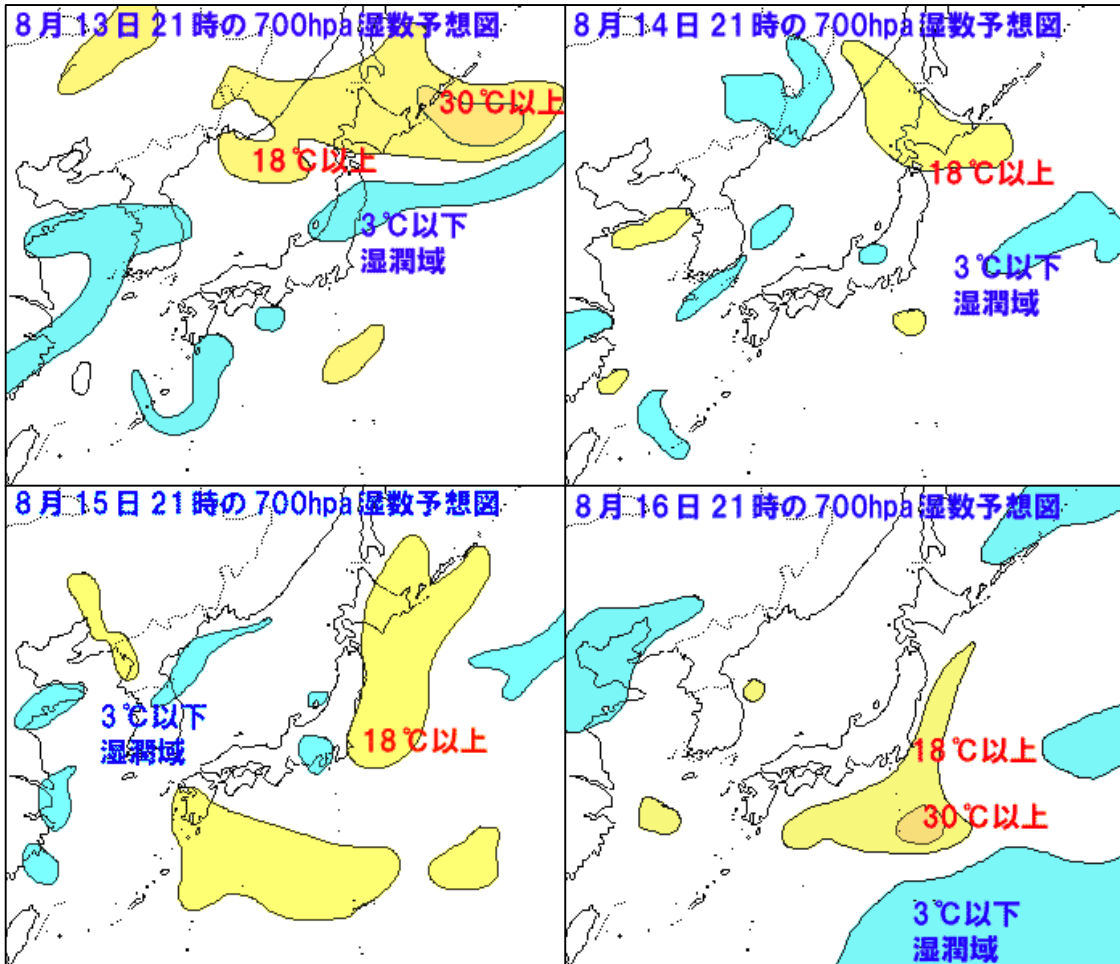
(3) 500hpa渦度図から中層大気の状態からダクトの発生を解析する

中層大気の500hpa渦度図を見ると、この期間中日本付近は大きな負渦度領域に広く覆われたことがわかります。



(3) 700hpa湿数予想図から下層大気の状態からダクトの発生を解析する

下層大気の700hpa湿数予想図を見ると、13日にはまだ本州付近に湿潤空気が残っていたことがわかりますが、14日以降は乾燥空気に覆われたことがよくわかります。ダクトの発生が16日まで確認されていたことは、15日～16日にかけて乾燥空気の流れ込みが続いたことに関連すると推定されます。  
(湿数 = 気温 - 露点温度 … 湿数が大きいほど空気が乾燥している)



以上の気象解析より、12日まで前線や湿潤空気の影響で雨の降りやすくダクトは発生しにくい状況でしたが、13日～14日にかけては

高気圧の勢力が強まり

乾燥空気の流れ込みによる下降流が発達したと見られることから

ダクト発生条件がそろいやすくなったと考えられます。

また、高気圧の勢力の強まりが無くなった15日、16日にかけてもダクトが発生したことについては、

上空に乾燥空気による流れ込みが続いたこと

上空の乾燥空気と相対的に地上付近には湿潤空気が溜まりやすくなったこと

から乾燥空気と湿潤空気の間で成層状態を形成しやすくなったためと推定できます。

以上から13日～16日にかけてはダクトが発生しやすい状況が続いていたことが考えられます。

### 3.移動運用によるダクト発生確認結果

< 8月14日の移動運用実施結果 >

移動地 :新潟県三島郡越路町

運用設備 :KENWOOD TM-455/自作K1FO 22\*2/10W

運用モード :430MHz-FM(ブリアンプは無いので使用していません)

時間	相手局	相手局運用地	レポート	備考
15:33	7 M 4 D B V / 7	青森県上北郡十和田湖町	53(59)	
16:13	J M 7 B W U / 7	秋田県由利郡仁賀保町	57(58)	
21:33	J M 7 B W U	秋田県秋田市	59(59)	

移動運用から自宅に帰ってから、北海道松前郡松前町移動局とも交信成立！

< 8月16日の移動運用実施結果 >

移動地 :新潟県三島郡越路町

運用設備 :KENWOOD TM-455/自作K1FO 22\*2/10W

運用モード :430MHz-FM(ブリアンプは無いので使用していません)

時間	相手局	相手局運用地	レポート	備考
07:36	J A 8 C Z R	北海道函館市	55(51)	
07:43	J F 8 D K D	北海道函館市	59(59)	
07:48	J J 8 U G I	北海道苫小牧市	51(55)	
08:07	J A 8 U E B	北海道千歳市	41(53)	

16日も終日ダクトの発生が確認されました。